

注腸カテーテルE

再使用禁止

【警告】

1. 本品を抜去後、出血等があった場合は、直ちに医師の指示に従い、適切な処置を施すこと。
2. 使用前検査
天然ゴムラテックス製のカテーテルは経年変化により一部老化し、ゴム弾性が劣化する場合があるため、使用前に汚染に十分注意して、バルーンに空気を入れ膨らませバルーンのゴム弾性を確認し、それから空気を抜き潤滑剤を塗布し挿入すること。

【禁忌・禁止】

<使用方法>

1. 再使用禁止
2. バルーン部及びシャフト部分を鉗子等で挟まないこと。
また、刃物等による傷は絶対に避けること
[カテーテルの切断、バルーンの破裂やバルーンが収縮しなくてカテーテルが抜去できない危険性がある。]

<次の被検者には使用しないこと>

1. 腸管に穿孔またはその疑いのある場合
2. 腸管に急性出血のある場合

<適用対象（患者）>

次の患者には使用しないこと

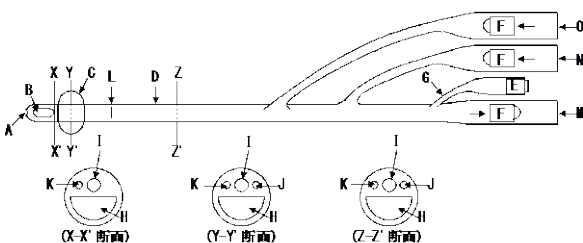
「天然ゴム」に対してアナフィラキシーの既往歴のある患者

<併用禁忌>

1. オリーブ油、白色ワセリン等の動物性油脂、植物性油脂、鉱物性油脂を含んだ潤滑剤、造影剤もしくは薬剤（軟膏剤等）を絶対に使用しないこと。
[バルーンが破裂する危険性がある。]
2. バルーンを拡張させる際は、空気以外は使用しないこと。
[造影剤を使用した場合は、バルーンが破裂する危険性がある。生理食塩水を使用した場合、結晶化しインフレーションルーメンが閉塞してバルーンが収縮しなくなる危険性がある。]

【形状・構造及び原理等】

材質：天然ゴムラテックス



名称

A:先端部	I:バリウム注入パイプ
B:側穴	J:バルーンパイプ
C:バルーン	K:エアー注入パイプ
D:シャフト	L:目印
E:バルブ（バルーン用）	M:排出ファネル
F:逆止弁	N:エアーファネル
G:バルーンファネル	O:バリウムファネル
H:排出パイプ	

【使用目的又は効果】

- ・肛門科用・レントゲン科用
- ・滅菌済なので直ちに使用できる

【使用方法等】

本品は直腸に挿入し、薬剤（バリウム）、空気の注入・排出を行い、注腸検査用として用いる。

1. 包装を開封したら、汚染に十分注意してカテーテルに30 mLの空気を入れ、バルーンの膨らみに異常がないか目視で確認し、一度空気を抜きシャフトに潤滑剤（キシロカインゼリー、グリセリン等）を塗布する。
2. 肛門よりカテーテルを表示線まで挿入し、バルーンに30～50 mLの空気を入れカテーテルを固定する。
3. 検査前腸内に残渣がある場合には、排出口より吸引排出する。
4. バリウムをバリウム注入パイプロ元より適量注入する。
5. 空気をエアー注入パイプロ元より注入し、バリウムを大腸へ送り込み、大腸を膨張させる。
6. 排出パイプロ元に、容器をセットし、余分なバリウム等、排出物の排出を行う。
7. 透視を行う。
8. 検査終了後直腸内のバリウム、空気等の内容物を排出口より吸引排出する。
9. カテーテルを抜去する際は、シリンジを装着し、バルーン収縮による自然抜気により空気を排出させる。収縮が遅い場合や全く収縮しない場合はシリンジをもう一度装着し直す。必要なら収縮を促すためにゆっくりした吸引を行う。バルーンが収縮した後、異常な抵抗がないことを確認しながら、ゆっくりとカテーテルを引き抜く。

【使用上の注意】

1. 使用注意

天然ゴムは、かゆみ、発赤、蕁麻疹、むくみ、発熱、呼吸困難、喘息様症状、血圧低下、ショックなどのアレルギー性症状をまねに起こすことがある。このような症状を起こした場合には、直ちに使用を中止し、医師による適切な措置を施すこと。

2. 重要な基本的注意

- 1) カテーテル挿入時、異常な抵抗を感じたときは、無理に挿入操作を行わず、カテーテルを抜去し、挿入できなかった原因を確認すること。
- 2) バルーンを拡張させる際に、規定容量以上の空気を注入しないこと。[バルーンが破裂、または収縮しない危険性がある。]
- 3) 体動等でねじれたり折れ曲がったりしてカテーテルが閉塞したり逆止弁効果を失う危険性があるので、カテーテルの固定方法に注意し使用すること。

【保管方法及び有効期間等】

1. 貯蔵・保管方法
直射日光を避け、乾燥した涼しい場所で室温にて保管する。
2. 有効期間・使用の期限
直接の包装及び外箱に記載。

* 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元： 澤谷ゴム株式会社
〒680-1202 鳥取県鳥取市河原町布袋 21-1
TEL：0858-85-5656

販 売 元： カイゲンファーマ株式会社
〒541-0045 大阪市中央区道修町二丁目 5 番 14 号
TEL：06-6202-8975